

6-5

ケジラミ症

ケジラミ症は、ケジラミが陰毛や肛囲の毛に寄生して生じる性感染症の一つであるが、頭髮の直接的な接触や帽子・寝具類を介して感染することもある。寄生を受けて1か月以上経過してから寄生部位の掻痒を生じ、掻破痕を認めるが、自覚症状を欠く場合もあり個人差が大きい。

診断：毛髪に付着したケジラミの虫体、虫卵をダーモスコピーや検鏡で確認する。

治療：スミスリンパウダー®、あるいは、スミスリンシャンプー®を薬局で購入してもらい、3～4日おきに1回、計3～4回処置する（スミスリンは虫卵には効果がないため複数回の処置が必要）。剃毛により肛門周囲や腋窩など他の発毛部に虫体が移動することがあり、必ずしも剃毛する必要はない。

（皮膚科 泉 健太郎 2020.09）